

2014年度入学時アンケートの結果（報告）

FD委員会

I. アンケートの概要

2014年5月～6月に1年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、東北福祉大学入学前に重視した内容についての項目35項目、学部・学科の志望順位各1項目、アドミッションポリシーの参考度についての項目1項目、学科ウェブサイト閲覧及び影響度についての項目3項目、入学後の不安内容についての項目7項目、入学後の生活上の不安についての調査する項目9項目、学内の相談相手についての項目9項目、卒業後の希望進路についての項目10項目より構成。432名の回答が得られた（回答率32.6%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性

回答者の総数、学科構成、性別、入試形態、居住形態、部活動・アルバイト・ボランティアの実施状況を表1-1、表1-2に示す。

表1-1 回答者の属性(1)

	人数	設問2 性別		設問3 入試			設問4 居住形態	
		男性	女性	AO	推薦	一般	自宅	自宅以外
全学	432	120	312	40	106	286	232	200
	度数 %	27.80%	72.20%	9.30%	24.50%	66.20%	53.70%	46.30%
社会福祉学科	122	30	92	12	31	79	62	60
	度数 %	24.60%	75.40%	9.80%	25.40%	64.80%	50.80%	49.20%
社会教育学科	44	17	27	2	8	34	17	27
	度数 %	38.60%	61.40%	4.50%	18.20%	77.30%	38.60%	61.40%
福祉心理学科	70	11	59	8	22	40	40	30
	度数 %	15.70%	84.30%	11.40%	31.40%	57.10%	57.10%	42.90%
産業福祉マネジメント学科	32	17	15	6	8	18	22	10
	度数 %	53.10%	46.90%	18.80%	25.00%	56.30%	68.80%	31.30%
情報福祉マネジメント学科	25	17	8	1	6	18	13	12
	度数 %	68.00%	32.00%	4.00%	24.00%	72.00%	52.00%	48.00%
子ども教育学科	46	6	40	4	10	32	24	22
	度数 %	13.00%	87.00%	8.70%	21.70%	69.60%	52.20%	47.80%
保健看護学科	29	5	24	2	6	21	23	6
	度数 %	17.20%	82.80%	6.90%	20.70%	72.40%	79.30%	20.70%
リハビリテーション学科	34	11	23	3	5	26	15	19
	度数 %	32.40%	67.60%	8.80%	14.70%	76.50%	44.10%	55.90%
医療経営管理学科	30	6	24	2	10	18	16	14
	度数 %	20.00%	80.00%	6.70%	33.30%	60.00%	53.30%	46.70%

表1-2 回答者の属性(2)

	人数	設問5 部活動・サークル				設問6 アルバイト			設問7 ボランティア		
		体育会	文化会	同好会	加入しない	している	これからしたい	していない	する(予定含む)	しない	
全学	度数 %	432	47 10.90%	197 45.60%	131 30.30%	57 13.20%	139 32.20%	259 60.00%	34 7.90%	388 89.80%	44 10.20%
社会福祉学科	度数 %	122	14 11.50%	53 43.40%	40 32.80%	15 12.30%	39 32.00%	79 64.80%	4 3.30%	112 91.80%	10 8.20%
社会教育学科	度数 %	44	6 13.60%	21 47.70%	14 31.80%	3 6.80%	13 29.50%	28 63.60%	3 6.80%	40 90.90%	4 9.10%
福祉心理学科	度数 %	70	4 5.70%	40 57.10%	20 28.60%	6 8.60%	18 25.70%	47 67.10%	5 7.10%	66 94.30%	4 5.70%
産業福祉マネジメント学科	度数 %	32	8 25.00%	10 31.30%	7 21.90%	7 21.90%	15 46.90%	14 43.80%	3 9.40%	28 87.50%	4 12.50%
情報福祉マネジメント学科	度数 %	25	2 8.00%	12 48.00%	5 20.00%	6 24.00%	7 28.00%	16 64.00%	2 8.00%	20 80.00%	5 20.00%
子ども教育学科	度数 %	46	2 4.30%	29 63.00%	12 26.10%	3 6.50%	18 39.10%	27 58.70%	1 2.20%	39 84.80%	7 15.20%
保健看護学科	度数 %	29	3 10.30%	15 51.70%	8 27.60%	3 10.30%	10 34.50%	13 44.80%	6 20.70%	25 86.20%	4 13.80%
リハビリテーション学科	度数 %	34	3 8.80%	10 29.40%	14 41.20%	7 20.60%	10 29.40%	16 47.10%	8 23.50%	30 88.20%	4 11.80%
医療経営管理学科	度数 %	30	5 16.70%	7 23.30%	11 36.70%	7 23.30%	9 30.00%	19 63.30%	2 6.70%	28 93.30%	2 6.70%

2. 入学前の重視事項

調査項目と本報告書での表記の対応、及び各項目の重視度の平均値を表2に示す。これらの項目の回答形式は、「とても重要だった」から「まったく重要ではなかった」までの4件法であり、得点が高いほど重視していたことを示す。

表2 入学前の重視事項、項目と表記の対応

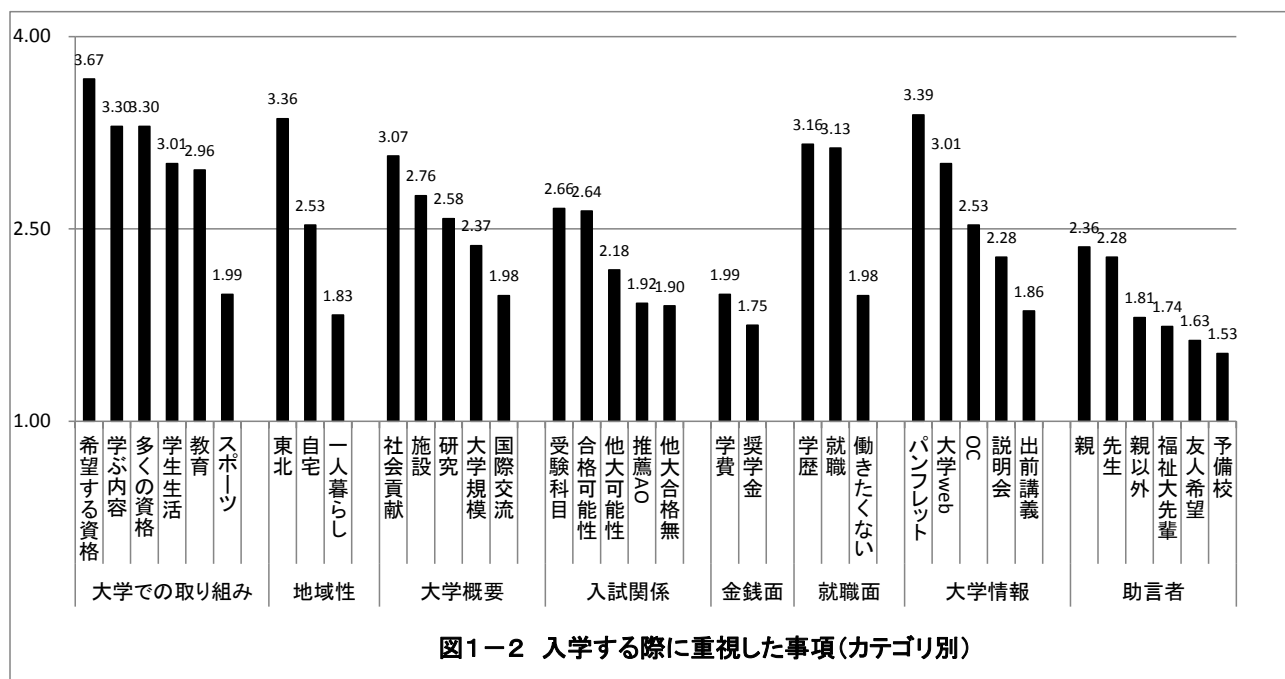
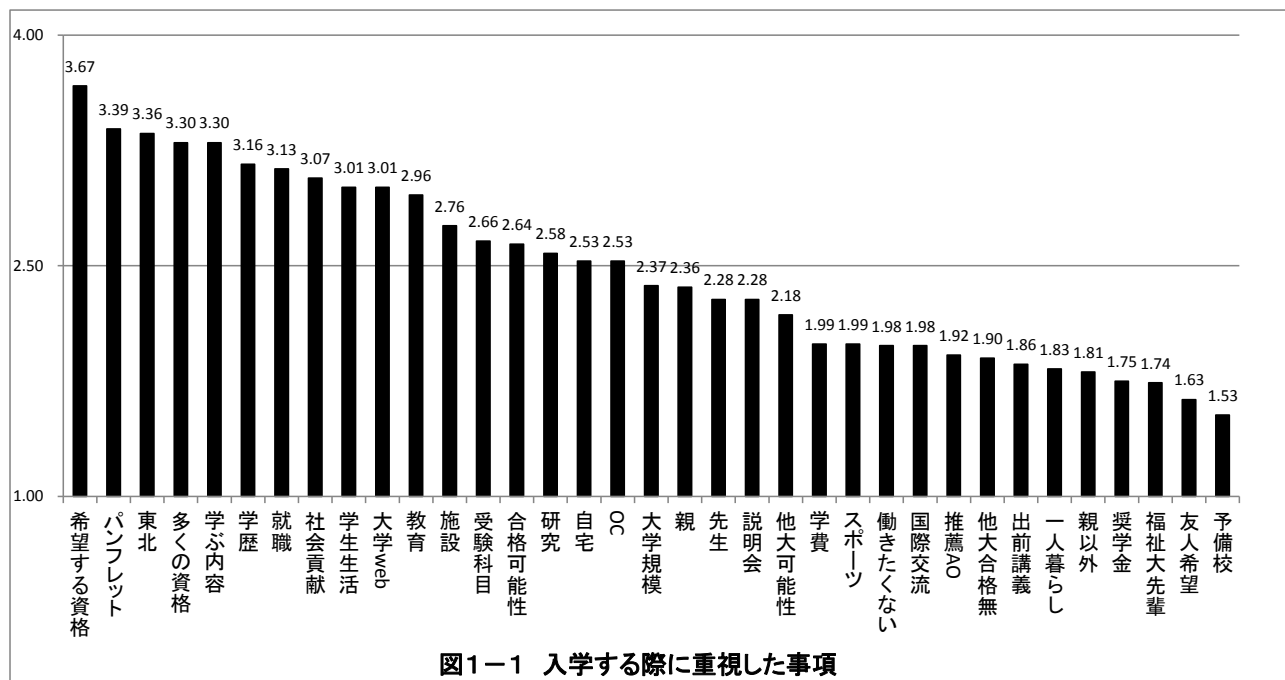
項目内容	表記	全学平均
親に勧められた	親	2.36
親以外の親族・親戚から東北福祉大学への進学を勧められた	親以外	1.81
高校の先生に勧められた	先生	2.28
東北福祉大学に進学した(していた)先輩から勧められた	福祉大先輩	1.74
周りの友達が東北福祉大学に進学を希望した	友人希望	1.63
予備校や塾で勧められた	予備校	1.53
すぐに働きたくないと思った	働きたくない	1.98
学生生活を楽しむことができそうと思った	学生生活	3.01
大卒の学歴を得たいと考えた	学歴	3.16
希望する専門的資格・免許等を取得することができると思った	希望する資格	3.67
多くの資格・免許等を取得できると思った	多くの資格	3.30
東北にある大学である	東北	3.36
自宅から通学できる	自宅	2.53
ひとり暮らしができる	一人暮らし	1.83
東北福祉大学に入学すれば奨学金が支給される	奨学金	1.75
学費が適当な額だった	学費	1.99
卒業生の就職率や就職先がよかった	就職	3.13
東北福祉大学の付属施設が充実していた	施設	2.76
東北福祉大学で学ぶ内容に興味があった	学ぶ内容	3.30
東北福祉大学の研究に魅力を感じた	研究	2.58
東北福祉大学の教育に魅力を感じた	教育	2.96
東北福祉大学の社会貢献・地域貢献の活動(ボランティア活動を含む)に魅力を感じた	社会貢献	3.07
東北福祉大学のスポーツ活動に魅力を感じた	スポーツ	1.99
東北福祉大学の留学や海外研修、国際交流に魅力を感じた	国際交流	1.98
東北福祉大学の規模(学生数やキャンパスの広さ等)が適当であった	大学規模	2.37
東北福祉大学の合格可能性が高かった	合格可能性	2.64
他大学の合格可能性が低かった	他大可能性	2.18
東北福祉大学以外に合格した大学がなかった	他大合格無	1.90
受験の際に入試科目が自分に合っていると考えた	受験科目	2.66
推薦入試、AO入試などで入学が早く決まった	推薦AO	1.92
東北福祉大学のウェブサイトを見た	大学web	3.01
東北福祉大学の教員による講義を受けた(出前講義、高大連携授業など)	出前講義	1.86
本学説明会、進学相談会に参加した	説明会	2.28
「With You」などのパンフレットを見た	パンフレット	3.39
オープンキャンパスに参加した	OC	2.53

回答形式:とても重要だった(4)～まったく重要ではなかった(1)の4件法

重視度の高い順に項目を並べてまとめたのが図1-1である。また、項目を内容別に整理し、さらに重視度の高さで整理したものが図1-2である。

これらより、特に入学前の検討段階で特に重視されていたのは、「大学での取り組み」における「資

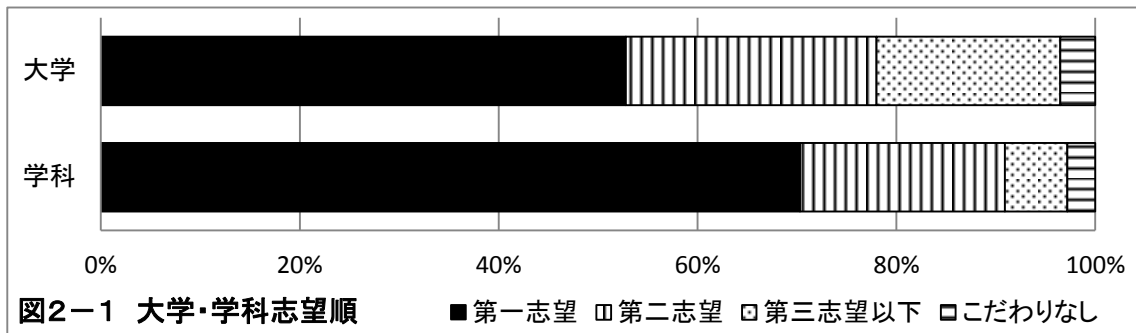
格、教育内容」、「地域性」における「東北にある大学である事」、「大学概要」における「社会貢献」、「就職」における「卒業者の就職率、大学卒という学歴」、「大学情報」における「パンフレット」であることが示された。一方で「(親・先生以外の)助言者」「金銭面」は比較的どの項目も重視されていないことが明らかとなった。これらの特徴は平成 25 年度入学者とほぼ同様であった。



3. 学部・学科志望順位

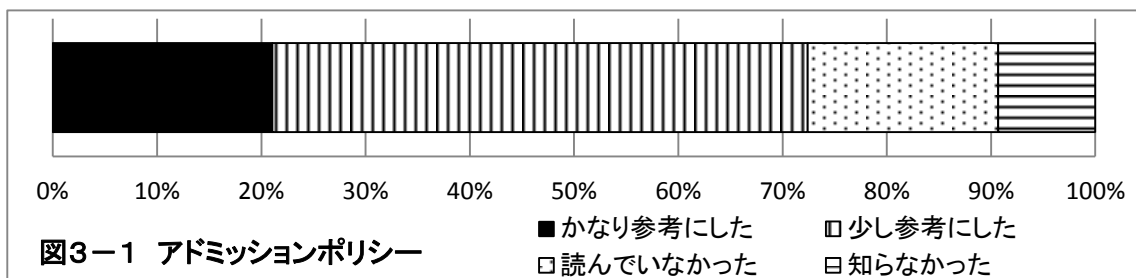
大学と学科の志望順位を図 2-1 に示す。

大学の志望順位では5割程度が第1志望であることが示された。ただし、「第3志望以下」及び「学部へのこだわりがなかった」者を併せると2割程度にのぼることも同時に示された。学科の志望順位ではその割合は1割程度となり、第1・第2志望を併せると9割程度となることが示された。これらの特徴は平成25年度入学者とほぼ同様であった。

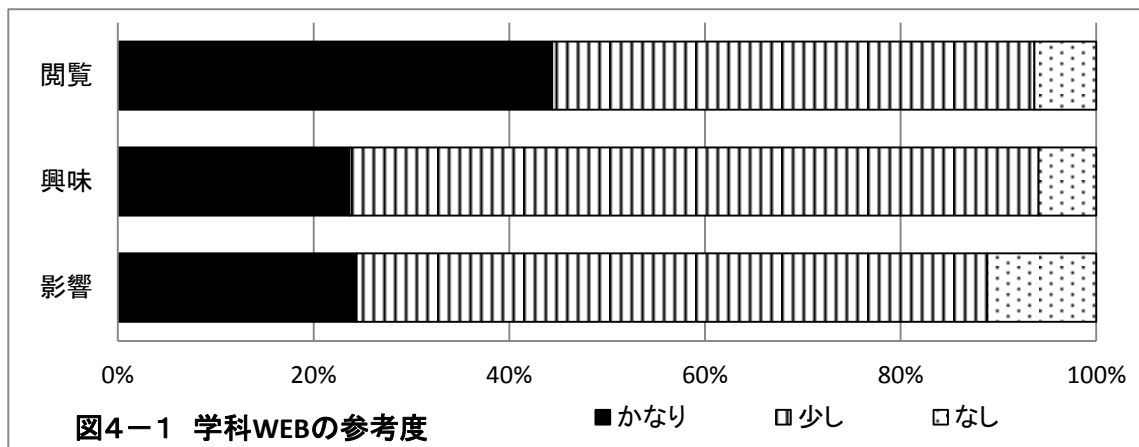


4. 大学・学科情報の参考度

本学のアドミッションポリシーの参考度についての回答を図 3-1 にまとめた。かなり参考にした者が2割程度であり(平成25年度では3割程度)、「かなり、少し」をまとめると7割程度が参考にしたと回答していることが明らかとなった。また、アドミッションポリシーの存在を知らなかったものも1割程度存在することも明らかとなった。これら全体的な傾向は平成25年度入学者とほぼ同様であった。

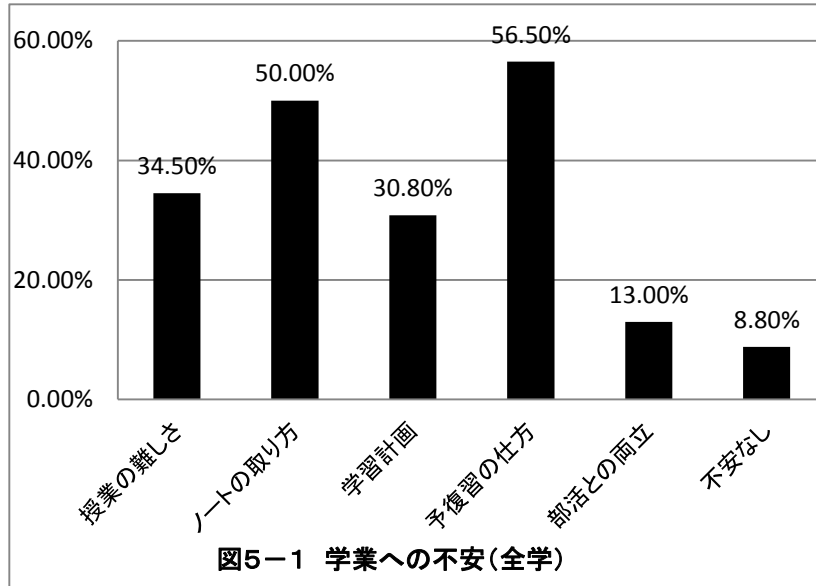


学科ウェブサイトの参考度について図 4-1 にまとめた。なお、「興味」「影響」の項は「閲覧」の項目で「見ていない」と回答した者を除いて集計している。これより、ウェブサイトを見てない者は1割以下にとどまることが明らかとなり、4割以上がかなりよく見ていたことが明らかとなった。興味度については、およそ2割が「かなり興味をもった」と答えたものの、回答の大半は「少し」という程度であることが示された。影響度についても興味度と同様であり、特に「影響を受けなかった」と回答した者が1割程度であることが示された。これら全体的な傾向は平成25年度入学者とほぼ同様であった。



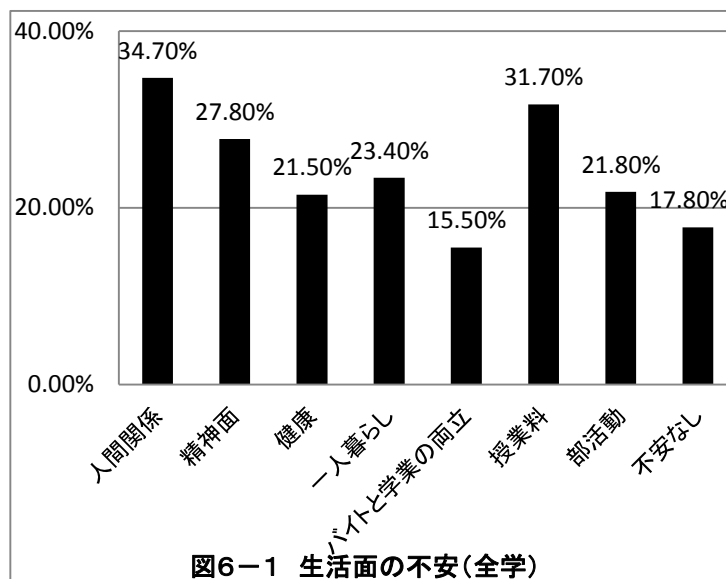
5. 入学後の学業に対する不安について

学業不安について、「その他」を除く 7 項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の 2 択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1 項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図 5-1 には全学での結果をまとめた。これより、特に「予習復習の仕方」と「ノートを取り方」について、半数の者が不安を抱えていることが明らかとなった。これら全体的な傾向は平成 25 年度入学者とほぼ同様であった。



6. 入学後の生活面での不安について

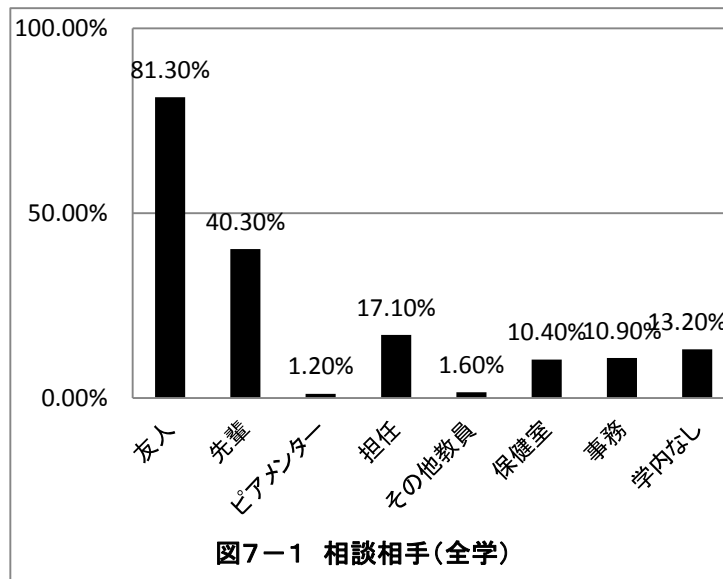
生活面での不安について、「その他」を除く 8 項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の 2 択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1 項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図 6-1 には全学での結果をまとめた。学業面での不安と異なり、半数以上が選択した項目は認められなかったが、その中でも「人間関係」が最も多く選択されていたことが明らかとなった。次いで「授業料」「精神面」となっていた。また、「不安なし」と答える者は学業不安よりも多く、2 割程度であることも明らかとなった。これら全体的な傾向は平成 25 年度入学者とほぼ同様であった。



7. 学内での相談相手について

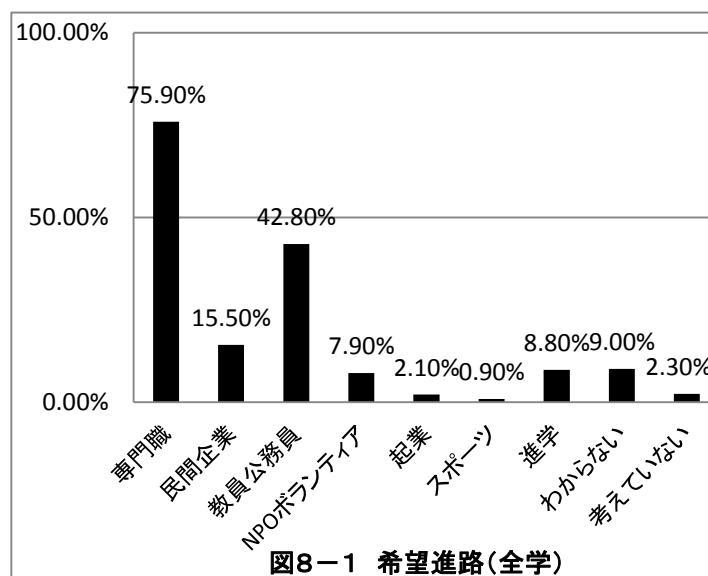
学内の相談相手として8項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の2択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図7-1には全学での結果をまとめた。最も相談相手として選択されているのは「友人」であり、次いで「先輩」「リエゾンゼミ I の担任」の順となっていた。ただし本項目は「友人」「先輩」という相談相手のカテゴリを問う形式であるので、実際の相談人数とは対応しないことには注意したい。また、「学内に相談相手がない」と答えた者も1割程度いることも明らかとなった。

「学内に相談できる相手がない」と答える者が1割を超えており、この点において平成25年度入学者との違いを示していた。



8. 卒業後に希望する進路について

卒業後の進路として9項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の2択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図8-1には全学での結果をまとめた。「専門職」の希望が最も多いことが全学的な傾向であることが明らかとなっており、次いで、「教員公務員」「民間企業」となっていた。また、「考えていない」という者はほとんど見られなかったが、「わからない」と回答した者がおよそ1割程度いることも明らかとなった。これら全体的な傾向は平成25年度入学者と同様であった。



9. 基本属性と不安・相談相手との関連

学業不安、生活不安、相談相手の各項目と統計的に有意に関連がみられた属性は表3に示す通りであった。入試形態において、AO・推薦入試入学者が一般入試入学者よりも授業のむずかしさに対して不安を抱え、かつ学業と部活動あるいはアルバイトとの両立に不安を抱えている傾向が見受けられた。また、部・サークル活動については、調査時点で加入していない者が「友人」「先輩」という相談相手を持ちづらいということが示された。そして部活動に加入している者のほうが授業料という金銭的負担に対して不安を抱えていることが明らかとなった。アルバイトの項からは、「これからやろうと考えている」者が「予復習、人間関係、一人暮らし、両立」に関して不安を抱いており、逆にこれらに不安を感じているからこそ意欲はあっても実行に移せないという可能性が示されたと言えるのではないだろうか。

表3 基本属性と学業不安、生活不安、相談相手との関連

		性別	入試形態	居住形態	部・サークル活動	アルバイト	ボランティア活動
学業不安	授業の難しさ		一般<AO、推薦				する<しない
	ノートの取り方						
	学習計画						
	予復習の仕方	男性<女性				している<これから	しない<する
	部活との両立		一般<(AO)<推薦		加入せず、同好会、文化会<体育会		
生活不安	人間関係					していない<これから	
	精神面						
	健康			自宅<自宅以外		している、これから<していない	する<しない
	一人暮らし			自宅<自宅以外		している<これから	
	バイトと学業の両立		一般<(推薦)<AO			していない、これから<している	
	授業料				体育会、文化会<同好会<加入せず		
相談相手	部活動・サークル活動				加入せず<体育会、文化会、同好会		
	友人	男性<女性			加入せず<体育会、文化会、同好会		しない<する
	先輩				加入せず<体育会、文化会、同好会		
	大学関係者*						

*ピアメンター・担任・教員・保健室・事務という5項目を再コード化した

10. 不安と相談相手との関連

学業不安、生活不安と統計的に有意に関連がみられた相談相手は表4に示す通りであった。大きく2つの傾向が示された。まず「人間関係」「精神面」での不安については、友人や先輩といった同年代他者を相談相手として選択しない者が抱えやすい不安であることが示された。反面、「授業のむずかしさ」「予復習の仕方」は教職員を相談相手として選択しない者が抱えやすい不安であることが示された。問題の種類に応じて相談相手を使い分けて対処している傾向が示されたといえよう。

表4 相談相手と学業不安、生活不安との関連

		友人	先輩	大学関係者*
学業不安	授業の難しさ			選択<選択せず
	ノートの取り方		選択せず<選択	
	学習計画			選択<選択せず
	予復習の仕方			
	部活との両立			
生活不安	人間関係	選択<選択せず		
	精神面	選択<選択せず		
	健康			
	一人暮らし			
	バイトと学業の両立			
	授業料			
	部活動・サークル活動			

*ピアメンター・担任・教員・保健室・事務のうち1つでも選択

11. 不安と希望進路との関連

学業面での不安、生活面での不安と統計的に有意に関連がみられた希望進路手は、表4に示す通り通りであった。なお、希望進路については、全学的に選択率の高かった「専門職」「民間企業」「教員公務員」の3項目に、「わからない」を加えた4項目とした。

特に将来の希望進路を「わからない」と回答する者が「学習計画」(学習計画や履修計画の立て方がよくわからない)という不安を抱えていることが明らかとなった。将来の展望が見えないことで、現状において何を選択し履修すべきか選択しづらくなっていることが伺われる。

表5 希望進路と学業不安、生活不安との関連

		専門職	民間企業	教員公務員	わからない
学業不安	授業の難しさ			希望<希望せず	
	ノートの取り方				
	学習計画				該当せず<該当
	予復習の仕方				
	部活との両立				
生活不安	人間関係				
	精神面				
	健康				
	一人暮らし				
	バイトと学業の両立				
	授業料				
	部活動・サークル活動				